

1986年 6月25日

<毎月25日発行>

第90号 6頁 300円

定期購読料（1部22回）

手渡し 3000円／開封 3500円／密封 4000円

赤旗

セッキ

共産主義者同盟中央機関紙

二面 …… 諸闘争の報告記事など
三面 …… 除名決定など
四・五面 …… 現代世界と帝国主義（3）
六面 …… 天皇制論文（5）

東京都下谷郵便局私書箱180号
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号

発行
赤路社

日本帝の戦争攻撃を打碎く 革命的大衆行動を組織しよう

「ダブル選挙」の正体

中曾根政権が発足して二年半。
わが国の金融独占アルジョワジーの
政治意志を表現し、米帝世界戦略の
強固な一翼として「国際國家」即ち「戦争遂行国家体制」へ
侵略と反動の道をつゝ進んで

きた自民党政権は、この七月六日
に「衆参同時選挙」を行なう。

今回の衆議院解散・ダブル選挙
が「自民党の安定期多数確保」だけを
求める、戦後国政選挙の常識を踏
みはずるもの」という批判があ
る。だが、「戦後政治の総決算」
をかける中曾根自民党政権にと
つて痛くもかゆくもない。また、
自民党が中曾根の二選をめざすの
か、どの「ユーリーダー」が浮
上するのかに眼を奪われ、政府工
業化しこれを中曾根個人の傾向に切
り縮める「政府打倒」のストーカ
ンが議会内外で問はず顕在化し
ていることには批判の方を向けな
れはない。

中曾根は、就任以来、米帝レ
ガンの世界戦略の下、対ソ戦と民
族解放闘争の鎮圧をめざす反革命
体制を、アジアにおける限定核戦
争の具体的遂行にむけた日米韓核
交渉における臨戦外交は、国内に
おいては大皇制攻撃を頂点とする
新自由主義イデオロギー統合や三天
休暇を強めるブルジョワ代議制・ブル
ジョワ民主主義を右から補完する
平和と民主主義の法規範の解体、
帝国主義労働運動への右翼統合や
ファシスト・民間反革命の胎頭
として、総じて「戦後政治の
総決算」＝「八五年体制」を完成
させてきたのである。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さらには英帝王室來日
が国民の政治意識を解体して、
「ダブル選挙」を翼賛選挙とする
ことも狙っていた。

政府の侵略性をおおいかくすよう
な国政選挙に対する態度は、革命
的左翼にとって決して許されるも
のではない。東京六日

八四年の全斗煥招日、ヒロヒト
道や「国民党」が就こうと貴
かれていくものに他ならない。

この危機の時代、すなわち戦争
と革命の時代におけるアルジョ
ワジー国家の階級的本質、帝国主義
は天皇制をテコとする排外主義國
民統合を一挙に実現してきた。そし
て、「在位六〇年式典」「東京サ
ミット」、さら



去る六月一日、東京・台東区清川の玉姫公園で日雇金協・山谷争議団主催による「六・一山谷境地闘争報告集会」が開かれた。集会には、日雇金協の各寄せ場の仲間をはじめ、支援の仲間、玉姫公園をとりかご労働者を含め六〇〇人が参加。権力・機動隊の警備をはねのけて熱気あふれる集会がかちとられた。

佐藤さん、岡田さんへの黙祷のあと、日雇金協から基調報告が行われた。この中で、三月二五日以降の日本国鉄会・金町一家の部隊登場による正面戦を闘い抜き、四月二日の労働者千名の決起で金町一家の拠点のひとつである喫茶店「グリーン」への勝利的闘いの意義が述べられた。そして、日雇金協の総力戦で、金町一家解体・一掃の闘いを、ねばり強く進めていく決意と、よりいつそ支援の訴えがあった。

日雇金協の現闘団が次々と発言し、四・三以降強まる警察権力の暴力妨害や、闘いへの封殺をはねのけて、今後も金町一家を追いつめていく闘いを日常的に展開していく決意を明らかにした。

このあと、寿日雇労働組合、笹島日雇労働組合、福岡日雇労働組合(華)、金崎日雇労働組合、山谷会三多摩、東大農学部の仲議団の代表が全国陣型で闘つていく方向を明らかにした。

現地支援からは、日大銀ヘル、ルミンの橋の水平撃ち、警棒・ナチス棒によつて部隊に襲いかかり

いが闘い抜かれた。これに対して、浅警・マンモスは、急拵機動隊を増員し、ショーランの橋の水平撃ち、警棒・ナ

チス棒によつて部隊に襲いかかり

た。この対して、又しても国家権力は裏いかかり、四名の仲間を不

断に逮捕し、不当な規制を行う。ボリ公会が金協の部隊への弾圧に

意義は、決定的に重要だ。

今、国家権力は闘いの爆發を恐れて、仲間の怒りの標的である

金町一家を一定退かせ、機動隊の

本年度中に本格着工する。あ

れで農民への切り崩しと共に、用

理の強化とセットになって押し

こと強引・第一駆逐予定地

政府・公会の動きがこのように

り結び、共に期を擡ぐ布陣を

六・一山谷集会に六百名結集

六・一三・一四金町一家・國家

去る六月一日、東京・台東区清川の玉姫公園で日雇金協・山谷争議団主催による「六・一山谷境地闘争報告集会」が開かれた。集会には、日雇金協の各寄せ場の仲間をはじめ、支援の仲間、玉姫公園をとりかご労働者を含め六〇〇人が参加。権力・機動隊の警備をはねのけて熱気あふれる集会がかちとられた。

佐藤さん、岡田さんへの黙祷のあと、日雇金協から基調報告が行われた。この中で、三月二五日以降の日本国鉄会・金町一家の部隊登場による正面戦を闘い抜き、四月二日の労働者千名の決起で金町一家の拠点のひとつである喫茶店「グリーン」への勝利的闘いの意義が述べられた。そして、日雇金協の総力戦で、金町一家解体・一掃の闘いを、ねばり強く進めていく決意と、よりいつそ支援の訴えがあった。

日雇金協の現闘団が次々と発言し、四・三以降強まる警察権力の暴力妨害や、闘いへの封殺をはねのけて、今後も金町一家を追いつめていく闘いを日常的に展開していく決意を明らかにした。

このあと、寿日雇労働組合、笹島日雇労働組合、福岡日雇労働組合(華)、金崎日雇労働組合、山谷会三多摩、東大農学部の仲議団の代表が全国陣型で闘つていく方向を明らかにした。

現地支援からは、日大銀ヘル、ルミンの橋の水平撃ち、警棒・ナ

チス棒によつて部隊に襲いかかり

た。この対して、又しても国家権

力は裏いかかり、四名の仲間を不

断に逮捕し、不当な規制を行う。

ボリ公会が金協の部隊への弾圧に

意義は、決定的に重要だ。

今、国家権力は闘いの爆發を

恐れて、仲間の怒りの標的である

金町一家を一定退かせ、機動隊の

本年度中に本格着工する。あ

れで農民への切り崩しと共に、用

理の強化とセットになって押し

こと強引・第一駆逐予定地

政府・公会の動きがこのように

り結び、共に期を擡ぐ布陣を

三百以降、六五名もの仲間が不当逮捕（うち七名が起訴）され、いる。山谷争議団では一五〇万円保険金カンパ、救援カンパ、さらには物資カンパを訴えている。

ヘンパ送り先

日雇金協・山谷争議団へ

電話03-3867-1708-1

郵便振替：東京八一八九一七

六山谷争議団

ヨンシン）氏の在留期限の切れる理由がのべられ、この日の闘いを「締括し」、集約していくことと提唱された。押なづ拒闘争を闘ってきた仲間たちが総集結し、対法務省闘争を闘い、その後に向けて決意表明。

日雇金協・山谷争議団は、このの不當逮捕をはねのけて闘われた。

す労働者が実力闘争を展開。この

闘いで五名の仲間が不當逮捕され、闘いが実力闘争を展開している。六月一

日雇金協・山谷争議団は、このの不當逮捕をはねのけて闘われた。

の闘いをステップに、警察権力

の闘争封じ込めをはね返し、攻勢

的闘いを展開している。六月一

日雇金協・山谷争議団は、このの不當逮捕をはねのけて闘われた。

の闘いをステップに、警察権力

一、問題のむすびかしさ
二、戦前の天皇制について
(一) 経済決定論＝三三データセ
三、戦後の天皇制について
(一) 戦後国家の基本要素
(二) 菅原アナクロ理論上天皇制ボ
ナルティズム論
(三) 最低の理論水準＝天皇制フアン
ズム論
(四) 天皇制宗教(本尊)
(五) 象徴天皇は天皇制の最高形態
か?
(六) 天皇制の役割

みに止る域をこえなかつた。内容上この方面では、せいぜいの所封建的絶対王制論からする封建的なものは半封建的なイデオロギーとして天皇制イデオロギーを単純化する偏向と、他方でのブルジョア階級支配の確立のなかでブルジョアイデオロギーに溶解すべき遅れた封建的遺物として扱う偏向とに止つていた。たしかに、三十年代後半に、反フランズム闘争のなかで、初めて天皇制の「半宗教的」性格が指摘されるに至つた。そして、一九四五年四月の中国共産党第七回大会においての野坂参三の報告では、「天皇は『二つの作用』をもつており、第一は、『封建的專制独裁政治機構』としての『天皇制』であり、第二は『現

ミ同一の論説をみる。とはいひ、共産主義の中にその存在を肯定せざる程の、天皇制イデオロギーの影響をも窺わせるのである。

徳川幕藩体制を打ち倒し樹立された昭治新政府は、その国家機構とりわけ軍事力の養成、確立と共に、自己的政権の正当性を被支配階級、とりわけ農民大衆訴え、浸透させる必要に迫られた。同時に強調の世界の領土的分割が進行しつつある中で、日本民族の国民的な意識統合を計らなければならなかつた。この封建性からの転換、新国家の形成、新しい統治の確立、つまり新たな政治、経済、社会上の変革を推進する上で、中央集権化

天皇制と宗教

目
次

であつて、すでに「天皇制ではない」（注①）とする部分は、その階級支配（まとわりついている天皇制イデオロギー）の広く根深い影響を全く忘れて去つてゐる。戦後国家では、天皇制は完全な脇役となり実権を持たない。しかしこのことから、天皇制を問題の焦点のひとつから外すことほく間違つていた。階級支配は、國家をアコに實徴させている。そして、戦後国家は名目としてあれ天皇制を残存させてきたし、天皇制イデオロギーをもろん新しく粉飾してではあるが巧妙に

について、専ら國家機構との係わりに留めて検討を加えてきた。ところが、左翼陣営における天皇制の政治上の総括規定（天皇制のアシズム規定）の明白な誤り、問題点を指摘してきた。しかし、それらの誤り、問題点と並んで左翼陣営の天皇制論の持つ一つの共通の弱点があると思われる。それは、天皇制とイデオロギー、宗教との係わりに関する分野である。もちろん、この方面的切開、分析も今日、かなりなされてきている事は疑いない。とはいえ、天皇制イデオロギーを丹念に分析し、その本性を暴露し、広範にかつ重厚に打ち返してゆく意識と行動の不本意なことは否定すべくもないのである。

天皇制をめぐる諸分析

も任用し、教化の重点も、新しい生活文化、産業技術等を含む上からの国民啓蒙運動に移行していく。しかし、「国民党」は、教部の基本方針に内在する矛盾を現われてあつたから、仏教側は、これ天地回復の好機と見て、一八七五年示四派が大教院を脱退してこの運動は折する。こうした中で神道界では神道を「國家の祭祀」として一般宗教から分離し、国家宗教としての特權を確保しようとする動きが強まつた。政府は神道界の動向にこたえて、祭宗教を分離し、国家神道の確立に踏み出た。」

新政権は、封建体制と固く結びついてきた仏教に全面的に依拠する訳にいかなかつた。また、倒幕闘争は、国学の興亡等を背景にしてきた。かつ、対外開港の緊迫のなかで、キリスト教の浸透への恐怖を抱いてきた。このような状況は、人文支配における宗教・イデオロギーの主流に神道を頭取せるものとなる。それに神道は天皇制を正当化する上で最も適した素材に外ならなかつた。

しかしながら、神道はかなりの程原始的な自然宗教であり、統一性に欠け、極めて長期間天皇制との係りをも欠き、从教に吸引されてきていた。したがって、明治新政権は神道を仏教から切離し、その力の結集を計り、天皇制との係

が極めて重視されることになった。それで、國家機構の中枢に新たに天皇制がえられてゆくのに対応し、このイデオギー政策の根幹に國家神道が新たに形され、位置づけられることになった。「明治維新で成立した近代天皇制政府、成立直後の一八六八年、政治理念の本として祭政一致をかげ、神祇官の最高位におかれた。こうして古代国興して、神判然と令した。(再興された神祇官は古代官制そのままで祭政)を実現するため」、「一八六九年、官軍の神祇制度が再興され、天皇制国家権の宗教的権威が全面的に復活した。」「廢藩置県を経て基礎を確立した政府の一連の近代化政策を打ちだして、文開化・殖産興業・富國強兵の道を歩みた。維新当初、新政府の宗教政策を導してきた復古神道家たちは、仏教へ打撃政策と「外教」キリスト教の防あを深めていった。」(注⑤)

かくて、政府は一八七一年、神祇省を設立し、教部省を設置し、教導職に僧侶も任用し、教化の重点も、新しい生活、産業技術等を含む上からの国民啓運運動に移行していく。しかし、「国民党」は、教部省の基本方針に内在する矛盾を深めていった。

かくて、政府は神道を「國家の祭祀」として一般宗教から分離し、國家神道としての特權を確保しようとする動きが強まつた。そこで、神道を「國家の祭祀」として「國家神道」、「國家の祭祀」として一般宗教から分離し、國家神道としての特權を確保しようとする動きが強まつた。

政府は神道界の動向にとて、祭神道を「國家の祭祀」として一般宗教から分離し、國家神道としての特權を確保しようとする動きが強まつた。

皇 制 と 宗 教

め、全国神社の格付けをし、土着の民
信仰を抑圧し、伝統的な神道を母体と
ながらも、新しい宗教を創り出さざ
えなかつた。國家神道は、古代思想
話の復活というものでは全然ない。こ
は疑いなく、近代の要求において神道
が創り出した新しい宗教、イデオロギ
ー

支配階級と国家の協調がなく弱まる。これに見合つて、この進歩性ではなく著しく遅れに起因するものであることは間違いない。事実、新國家の経済上の基礎は脆弱であり、政治支配は旧社会の支配階級と新社会の被支配階級の抵抗と反乱の上に立つた。新政権はこれら抵抗を威圧し屈服させるために、また、人民の膏血を容赦なく絞り取るために、精神世界の制覇をも有無をいわざぬ形で貫徹しなければならなかつた。だから当然、国家神道＝天皇制イデオロギーは新しい支配者、新しい支配階級、新しい国家の專制支配、恐怖政治と固く結びついたものである。このイデオロギーは、それを正当化する論拠として生み出されたものであった。

国家神道＝天皇制イデオロギーの創出と確立は、同時に、封建的な村落共同体の解体を促進した。すなわち、それは良間信仰の対象たる種々複雑多様な神々の国家神道＝天皇教の立場からする排撃、統合整理、系統化を通じて行われた。たとえば、民俗信仰の抑圧について安丸良夫はこう論じている。

「よのむろい視野からすれば、民俗信仰の抑圧は、明治維新をはじめ日本社会の体制的な転換にさいして、百姓一揆若者組、ヨバイ、さまさまの民俗行事、乞食などが禁錮され、人々の生活態度や地域の生活秩序が再編成され、再掌握されてゆく過程の一環、そのもっとも重要な部分の一つであつた。この過程を全体としてみれば、民衆の生活と意識の内部に国家がふかくたちひつて、近代日本の国家的課題にあわせて、有用で価値的なものと無用・有害で無価値なものとのあいだに、ふかく分割線をひくことである」といえます。」（注5）

ここにおいても、民衆の意識の近代化と皇室国家への統合・吸引が主題であることは一見して見てとれる。それは、封建的村落共同体の意識を打碎き、近代ブルジョア社会の価値觀浸透の地なしを果すことになった。

さういふ過程は、宗教上ではギリス・ト教と対抗することで、列強の圧迫とりわけその精神上の影響力の侵入を必死で防止し、列強に対抗する民族の結集を強引に推進することとなつた。キリスト教

氏俗
りは、外ならぬ自己の國家と支配を正當
への不安と恐怖、それへの対抗は、當時
化し、人民大衆を畏怖させる上で不可欠
の日本のおかれた國際情勢の鏡い反映で
であった。いずれにせよ兩者は、かれら
を
であつた。
・神
の國家、明治近代國家を立て、確立す
る上にかれらにとって無くてはならぬも
しそれ
のであつた。
上はひえ、この力神がかかるまゝ、かれら所
にござつた。天皇改ますてご述びによつ
記者

1000-10000